

リサーチグループ登録届出書

平成24年2月9日

1. リサーチグループの概要

リサーチグループの名称	海洋生物学		
リサーチグループの名称(英語)	Marine Biology		
分野(1. 人社系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系)			3
設置開始時期	24年		4月
設置終了時期	28年		3月

2. リサーチグループ代表者

所属・職名	生命環境系・教授		
氏名	稲葉一男		
氏名(英語)	Kazuo Inaba		

3. 連絡先

所属・職名	生命環境系・教授		
氏名	稲葉一男		
電話	0558-22-6699		
FAX	0558-22-0346		
E-mail	kinaba@kurofune.shimoda.tsukuba.ac.jp		

4. 担当部局(当該リサーチグループの運営等を管理する部局名)

下田臨海実験センター

5. 構成員一覧について

共通様式②

名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
稲葉一男	生命環境系(下田センター)	教授	細胞生物学	理学博士	代表者
齊藤康典	生命環境系(下田センター)	准教授	発生生物学	理学博士	分担者
笹倉靖徳	生命環境系(下田センター)	准教授	発生遺伝学	博士(理学)	分担者
谷口俊介	生命環境系(下田センター)	助教	発生生物学	博士(生命科学)	分担者
柴小菊	生命環境系(下田センター)	助教	細胞生物学	博士(理学)	分担者
中野裕昭	生命環境系(下田センター)	助教	発生生物学	博士(生命科学)	分担者
堀江健生	生命環境系(下田センター)	助教	神経生物学	博士(理学)	分担者
和田茂樹	生命環境系(下田センター)	助教	海洋生態学	博士(理学)	分担者
今孝悦	生命環境系(下田センター)	助教	海洋生態学	博士(理学)	分担者
濱健夫	生命環境系	教授	海洋生態学	理学博士	分担者
和田洋	生命環境系	教授	進化生物学	博士(理学)	分担者
柴田大輔	生命環境系(下田センター)	研究員	生殖生物学	博士(理学)	分担者
水野克俊	生命環境系(下田センター)	研究員	細胞生物学	博士(理学)	分担者
三田薫	生命環境系(下田センター)	研究員	発生遺伝学	博士(理学)	分担者
河合成道	生命環境系(下田センター)	研究員	発生遺伝学	博士(薬学)	分担者
笹倉暁子	生命環境系(下田センター)	研究員	発生遺伝学	博士(理学)	分担者

6. 構成員数について

構成員総数	16 名
(内訳) 本学常勤教員	11 名
(内訳) 本学ポスドク数	5 名
(内訳) 他機関研究者	0 名

7. 科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		5704	5806	5702
8. キーワード(5つまで)	海洋生物学	環境	生態	多様性	進化
9. キーワード(英語)	marine biology	environment	ecology	biodiversity	evolution
10. 研究グループHP	URLを記載してください。http://www.shimoda.tsukuba.ac.jp/				
11. 研究グループ概要(100字程度)					
<p>本研究グループでは、海洋生物学がもつ学術的・社会的重要性を鑑み、海洋生物や海洋環境に関する基礎研究、学際研究を展開する。これにより、ライフサイエンス、医学、水産学、環境科学など、多岐にわたる学問の知的基盤を築く。</p>					
12. 研究グループ概要(英語)					
<p>IN view of academic and social significance, this research group promotes basic interdisciplinary researches on marine organism and their environment.</p>					
13. 設置の目的及び必要性					
<p>本グループは、筑波大学の共同利用・共同研究施設である下田臨海実験センターを拠点とし、センター教員と関連する生命環境系の教員、研究員、および大学院生により、さまざまなアプローチから海洋生物学の基礎研究を推進し、ライフサイエンス、医学、水産学、環境科学など、多岐にわたる学問の知的基盤を築くこと、および当該分野の我が国ならびに国際的な研究拠点を形成することを目的とする。また、海洋生物や海洋環境の研究成果を広く社会に還元し、当該分野の社会への発信も目的とする。</p>					
14. 研究計画					
<p>海洋生物あるいは下田周辺の海洋フィールドを用いて、以下の研究を推進する。①海洋生物のゲノム科学、ポストゲノム科学の推進、②海産生物の多様性を利用した細胞の構造・機能の解析、多様化機構の解明、③海産生物の発生過程、メカニズムの解明と生物系統発生、進化の考察、④免疫系、神経系、生殖系などの構築と成立メカニズムに関する研究、⑤海洋生物の個体間相互作用、個体群の形成、個体群相互作用と生態系の成立に関する研究、⑥海洋無機物・有機物の海洋生物生態に与える影響に関する研究、⑦地球環境変動と海洋環境に関する研究、⑧下田周辺の海洋フィールドに棲息する生物種の記述、⑨各種海洋生物の飼育繁殖に関する基礎研究。研究グループに属する個々の教員グループを中心とする研究以外に、グループ間の共同研究や下田臨海実験センターを共同利用する研究者との共同研究を進め、多角的、学際的、創造的研究プロジェクトも推進する。研究は、下田臨海実験センターが有する研究施設、研究フィールドをフルに活用する。</p>					
15. 研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<p>①海洋生物の有する実験的メリットにより、ライフサイエンス分野のエポック研究が生まれることが期待される。 ②多様な生物相に富んだ下田のフィールドやセンターの施設を活用することにより、海洋生態、海洋環境に関するモデル研究が生まれることが期待される。 ③分子、細胞、発生、生理、系統など様々な研究ポテンシャルを持ち研究者どうしの共同研究により、高いポテンシャルのライフサイエンス研究が可能となるとともに、新たな発想による独創的な研究の展開が期待される。 ④実験生物学研究者とフィールド科学研究者の交流が加速され、多角的、学際的、創造的研究が生まれることが期待される。 ⑤センターが進める共同利用、共同研究事業により、グループ外の国内外研究者との交流が加速され、さらに新たな共同研究が生まれることが期待される。 ⑥下田臨海実験センターをフルに活用することにより、研究成果に直結した実習や大学院教育が可能である。 ⑦海洋生物や海洋環境分野は広く社会にも興味を持たれており、自然観察会、一般公開、市民講座、ホームページを通じた研究成果の発信は多大な社会貢献につながる。</p>					